

3 命を感じて  
(2) 自然や動植物を大切に

P.102~107

3-(2)

自然のすばらしさや不思議さに感動し、自然や動植物を大切にします。

1 この内容項目のページの特徴

自然のすばらしさや不思議さに感動し、自然や動植物を大切にすることを育てようとする内容項目である。自分たちの身の回りには、豊かな自然があり、無数の生き物がいることに気付くことができるよう、自然の美しさや生き物の不思議さを感じるきっかけとなる写真、詩や問い掛けなどを掲載している。一〇六ページの書き込み欄は、自然や動物、植物とのこれまでの関わりについて整理することができる。また、一〇七ページの人物のコラムでは、植物の不思議に魅了され、細やかに観察を続けた植物学者である牧野富太郎と植物との関わりを読んで、自然や動植物を大切にしようとする意欲を高めていくことができる。

2 活用のポイント

指導に当たっては、動植物の飼育や栽培活動などを振り返って、動物や植物の生命の力を感じたことを一〇四ページの書き込み欄に書かせたり、家庭や地域での自然との関わりを想起させ、一〇六ページの書き込み欄に記入させるなどして、自然のすばらしさや不思議さに感動し、自然や動植物を大切にすることを育てていくようにしたい。

3 活用場面例

道徳の時間

一〇二から一〇五ページの写真を参考にし、自然のすばらしさや不思議さを視覚的に捉えられるようにする。また、一〇七ページの人物のコラムを読んで、人物の生き方から、自然や動植物を大切にしようとする意欲を高めていくようにする。

事例①

① 「きくづくり」を読んで植物の生命力について話し合う。

② 一〇二から一〇五ページの写真を見て、動物や植物の生命の力不思議さやすばらしさについて感じたことを話し合う。

③ 動物や植物の生命力について思っ



P.102~103

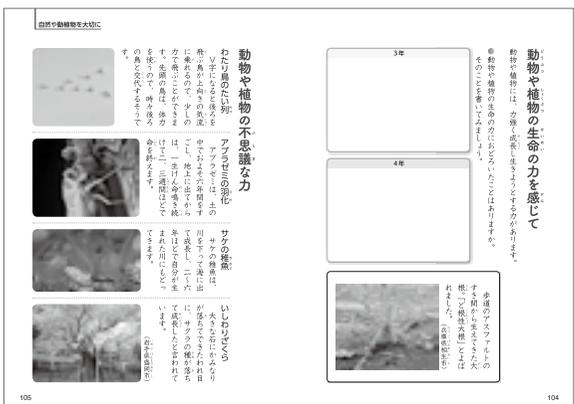
たことを一〇四ページに書く。

事例②

- ① 一〇七ページの人物のコラムを読んで、たくさん植物を観察し記録した牧野富太郎のことをどのように思っか話し合う。
- ② 飼育委員や栽培委員として活動する五・六年生の様子を紹介し、動植物の世話をしている上級生から、動植物を大切にすることを聞く。(ビデオレター形式でもよい。)
- ③ 一〇六ページに、自然や動物、植物との関わりを振り返って書き、発表する。
- ④ 自然や動植物を大切にすることとして、実践してみたいと思うことを発表する。

総合的な学習の時間

身近な自然や動植物を対象とした学習をするに当たって、自らの課題を見付ける際に、一〇五ページを参考にすることが



P.104~105

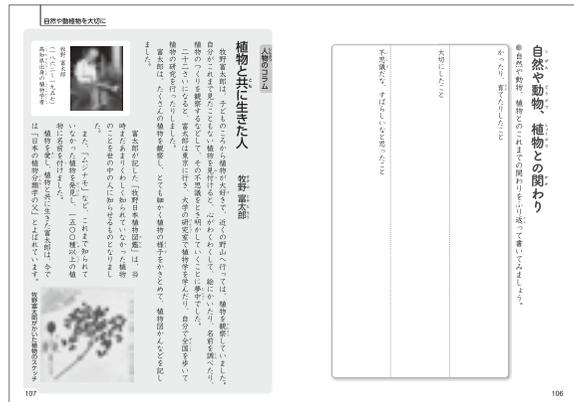
事例

- ① 一〇五ページを参考にし、自然や動植物に関して、知りたいこと、不思議だなど思ったことを一〇四ページに書く。
- ② 自分が調べてみたいことを決めて、図書室やパソコンを利用して様々な方法で調べる。
- ③ 同じ課題をもつ児童同士でグループをつくり、分担、協力して課題を追究する。その際、実際に地域に出掛けて調べたり、家庭や地域の人にインタビューしたりする。
- ④ 動植物の生命力や自然の不思議さなどについて、調べたことを基に、学習をまとめ、発表する。

日常生活

一〇六ページを活用して、学級の花壇や農園などで育てている植物や、飼育している動物などの成長や世話の様子を絵や文章に書いて、その状態や変容などから自然の生命力や不思議な力について気付いたことを発表する。

記録や発表は、定期的に行い、継続的な観察を続ける。



P.106~107

3 命を感じて

(3) 美しいものを感じて

P.108~115

3-(3)

美しいものや気高いものに感動する心をもつ。

1 この内容項目のページの特徴

自然の美しさや人間の心の美しさ、気高さを感じ取る心は大切なものであり、また、これらに触れたときに素直に感動する心は尊いものである。

一〇八・一〇九ページでは、屋久島の自然の美しさや偉大さを感じ、「一〇〇・一一一」ページでは、「花さき山」のコラムから人の心の美しさや気高さに触れることができるよう構成している。

屋久杉の写真や説明を通して、人の力を超えた自然があることや、そこに宿る神秘的な力について考えることができる。

また、「花さき山」のコラムをきっかけに原作を読むことで、作者である斎藤隆介が作品に込めた思いを知り、心の美しさについての考えを一層深めていくことができる。

2 活用のポイント

美しいものや気高いものに感動する心を培うには、人の心の美しさ、自然のすばらしさなど美しいものや気高いものに触れる機会を増やしていくことも大切である。人の力を超えたものや、人の心の美しさなどに触れ、感じることを通して、素直に感動する心を培うとともに、

意識的にそれらに触れていこうとする態度を育てるようにした。

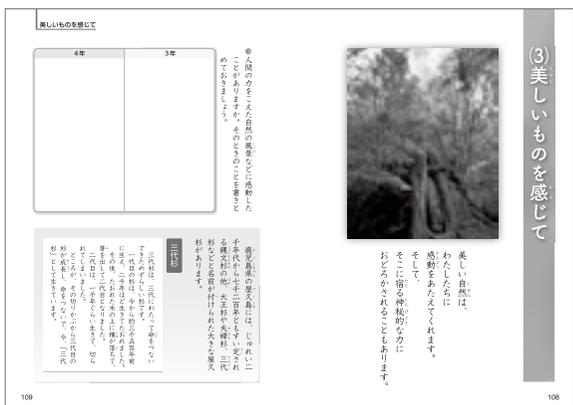
3 活用場面例

道徳の時間

一〇八・一〇九ページの写真を見たり、屋久杉の説明を読んだりして、自然の神秘的な力について考えるきっかけにする。

また、人間の力を超えた自然の風景などに感動した出来事を振り返る場面では、一〇九ページの書き込み欄を活用することができる。

さらに、人の心の美しさについて考える際には、一一〇ページの話のコラム「花さき山」や、その原作、「一一一」ページの「『花さき山』に添えて」を資料として活用することができる。



P.108~109

- 事例 ①**
- ① 一〇八ページの「美しいものを感じて」を基に、屋久島の縄文杉などの屋久杉について知り、人間の力を超えた自然について興味や関心をもつ。
  - ② 読み物資料を読んで話し合う。
  - ③ 一〇九ページの「人間の力をこえた自然の風景などに感動したことがありますか。」について、自分の生活を振り返って書き込む。

- 事例 ②**
- ① 「心が美しい」と感じるのはどのようなときか考える。
  - ② 「花さき山」のあらすじを読んで、感じたことを書き込み欄に記入して、話し合う。
  - ③ 人の心の美しさに感動したことについて振り返って話し合う。
  - ④ 「『花さき山』に添えて」を読む。



P.110~111

国語科

国語の内容「C 読むこと」の「(1)カ 目的に応じて、いろいろな本や文章を選んで読むこと。」の指導に当たって、一〇〇・一一一ページをきっかけに、人の心の美しさなどに関する読書活動を広げていく。

事例

- ① 「花さき山」のあらすじを読んだ感想を一一一ページの書き込み欄に書く。
- ② 「花さき山」の原作の読み聞かせを行い、感想を話し合う。
- ③ 「『花さき山』に添えて」を読む。
- ④ 人の心の美しさや自然のすばらしさなどについて書かれている本が数多くあることを知り、これからの読書活動につなげていく。

家庭との連携

長期休業中などに、自然の偉大さ、人の心の美しさや気高さに触れた出来事を家の人と話し合うよう依頼する。また、話し合ったことを学級で紹介し、美しいものや気高いものに感動する心を深めていく。

日常生活

帰りの会などで一日を振り返る際に、教師から、または友達同士で、美しいものや気高いものに感動したことを紹介し、「花さき山の花」に例えて、花のカードを掲示していくこともできる。

事例①

富士山の絵を描く北斎の思いについて考える展開

【主な学習】

- ① 富士山の写真を見て、感じたことを伝え合う。
  - ・ いろいろな色の富士山がある。
  - ・ とてもきれいな美しい形だ。
- ② 北斎は、旅の中で富士山の姿が見えるところのような思いで帳面に写し取っていたか。
  - ・ この美しさをなんとか残したい。
  - ・ 胸がどきどきする。
  - ・ なんて美しい山なのだろう。
  - ・ どのようにすれば、この富士山の美しさを描き表せるのだろうか。
- ③ 半月ばかり絵筆を走らせ、富士山の絵を描いた北斎はどのような思いだったか。
  - ・ やっとできた。
  - ・ やっと自分と富士山とがぴったりと重なった。
  - ・ 今までの思いを全て込めることができた。
  - ・ 富士山の美しさや偉大さをたくさんの人に知ってもらいたい。
- ④ 北斎はどのような思いでその後も富士山を描き続けたのか。
  - ・ 富士山を描くことがとても楽しい。
  - ・ 自分が富士山の美しさを伝えていきたい。
- ⑤ その他の美術作品などを鑑賞し、感動したことを話し合う。

1 資料の特性

本資料は、世界遺産に登録された富士山と、世界的にもよく知られている葛飾北斎の浮世絵という日本を代表する自然と文化を題材としている資料である。

北斎は、江戸時代後期に活躍した浮世絵師であり、半生をかけて富士山の美の表現にこだわりをもち続けた人物である。各所からの富士山の景観を描いた「富嶽三十六景」は海外からも高い評価を得ている。

北斎の富士山にかけられる思いや生き方に触れ、美しいものや気高いものに感動する心を培っていくようにしたい。

2 指導上の留意点

葛飾北斎が富士山を見てどれほど心を動かされ、感動したのかなど、富士山を浮世絵に描くことに情熱を傾けた北斎の思いを十分に考えさせる。

また、北斎が描いた浮世絵が、今なお世界中の人々に感動を与え続けていることについても触れながら、北斎の生き方やこだわりについても話し合い、美しいものに感動する心を育てていくようにしたい。

3 展開例

【ねらい】

美しいものや気高いものに感動する心を育てる。

事例②

北斎の描いた富士山や北斎の生き方について考える展開

【主な学習】

- ① 北斎の描いた富士山の浮世絵を見てどのように感じるか。
  - ・ 美しく、ダイナミック。
  - ・ 動きが感じられる。迫力がある。
  - ・ 同じ富士山でもいろいろな表現の仕方がある。不思議だ。
- ② 北斎の生き方についてどのようなことを感じるか。
  - ・ 北斎は、富士山に深く感動し、その美しさを表現し続けた人。感動する心ももち続けた人。



- ・ 富士山のこと大好きなので、納得のいく作品を描きたかったのだと思う。そこに最後までこだわり続けた人。
- ③ 自分たちも、北斎と同じように自然の美しさなどに感動したことはあるか。
  - ・ 自然の中で、夜空を見上げたとき、星がたくさん光っていた。
  - ・ とてもきれいな夕日を見たことがある。

◎音楽科との関連

「ふじ山」の歌を聴きながら、北斎の絵を鑑賞するなどして、美しいものに感動する心を育て、豊かな情操を養うための指導の工夫を行う。

道徳の時間に「富士と北斎」を読んで話し合い、北斎の富士山に対する思いに触れて、美しいものや気高いものに感動する心を培う。その後、音楽の時間に、歌唱教材「ふじ山」を歌う際に、道徳の時間に感じた富士山への思いを振り返った後で、富士山の雄大さや美しさを表現するように曲想を生かして歌う。

4 みんなと関わって

(1) 社会のきまりを守って

P.118~127

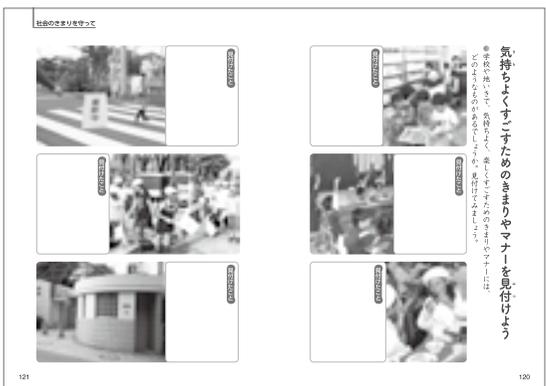
4-(1)

約束や社会のきまりを守り、公德心をもつ。

とを自覚することにもつながっている。

3 活用場面例  
道徳の時間

一一八から一二三ページは、約束やきまりはなぜあるのかを考える際に活用することができる。また、みんなが集まって暮らす上で、集団や社会生活の秩序を維持するために、一人一人が守らなくてはならないきまりを確認する際にも活用することができる。



P.120~121

事例①

① 一二〇・一二一ページを活用して、学校や地域で、気持ちよく、楽しく過ごすためのきまりやマナーには、どのようなものがあるかを考え、

1 この内容項目のページの特徴

本内容項目は、学習指導要領で示されている道徳の指導内容の重点の一つである集団や社会のきまりを守ることと関連の深い項目である。

集団や社会には、ルールが必要であり、一人一人がそのルールの意義や目的を理解した上で、それを主体的に遵守し、ルールを基にしてよりよい集団や社会をつくっていくことが大切である。

そのために、一一八・一一九ページでは、阪神淡路大震災での避難所を例に、なぜきまりがあるのかを考え、一二〇・一二一ページでは、気持ちよく過ごすためのきまりやマナーを見付けて、それらのきまりの意義などを考えるようになっていく。

また、一二二・一二三ページでは、学校生活のきまりを自分たちでつくった事例を通して、きまりの必要性を考えていくことができる。

2 活用のポイント

中学年の段階では、一つ一つの規則や約束の意味を考えながら、それを守ることが大切である。そのことは、約束やきまりを尊重する態度の育成に結び付くだけでなく、学校も社会の一つであり、自分もその一員であるこ

見付けたことを書いて発表する。

② 読み物資料「雨のバス停留所」を読んで話し合う。

③ きまりを守れなかったり、周囲への配慮を欠いてしまったらした経験を話し合う。

④ 一一八・一一九ページを参考に、学校や家庭、地域にあるきまりについて、なぜそのような約束やきまりがあるのかを話し合う。

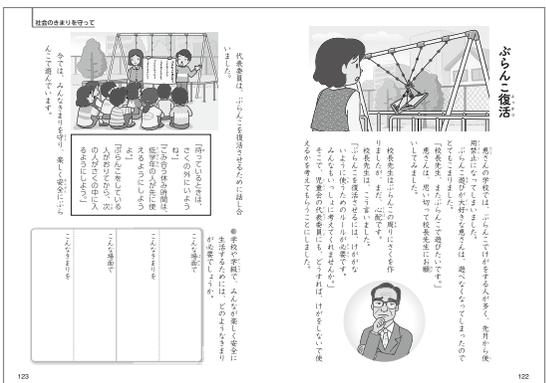
事例②

① きまりがなかったらどのようになると思うか話し合う。

② 「ぶらんこ復活」を読んで、けがをしないで使えるようにするために、自分たちならどのようにするかを考えて話し合う。

③ きまりの大切さを知って、きまりを守ってきたかどうか自分自身を振り返る。

④ 学校や学級の中で、どのようなきまりが必要か、また、なぜ必要かを考えて発表する。



P.122~123

特別活動（学級活動・学校行事）

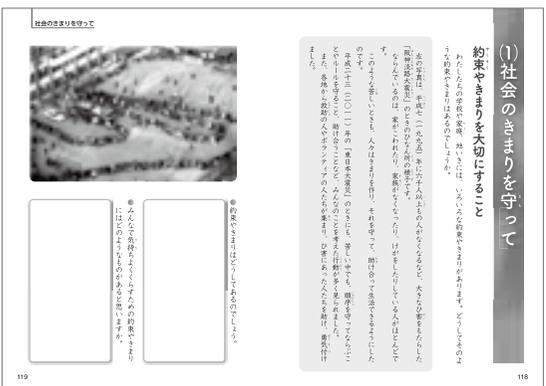
学級活動の内容「(2) 日常生活や学習への適応及び健康安全」の「カ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成」の指導に当たって、防災などの安全指導を行う際に、一一八・一一九ページを活用することができる。

一一八・一一九ページの避難所の様子からきまりを守って安全に行動することの大切さを学び、きまりを守るための方法を自分で決め、きまりを守るようにする。また、このページは、避難訓練など安全に関する学校行事との関連を図って活用することもできる。

なお、阪神淡路大震災だけでなく、東日本大震災のときに、秩序を守って行動しようとした人々の様子を関連して紹介することも考えられる。

家庭との連携

一一八・一一九ページに自分の考えを記入させた後、みんなで気持ちよく暮らすための約束やきまりについて、家の人も話し合うよう助言する。家庭には、どのような約束やきまりがあるのかについても考え、それらを進んで守ろうとする態度を育てる。



P.118~119

1 資料の特性

主人公のよし子のような行動は、日常的に児童によく見られることである。そのため、自分自身に置き換えて考えやすく、この資料を活用して、約束やきまりが必要な理由を考え、進んでそれらを守ろうとする態度を育てることができる。

順番を守ることがなぜ大切なのか、きまりがなぜ必要なのかを考えることを通して、約束やきまりの必要性や重要性を認識し、周囲の人々への配慮や思いやりをもって集団や社会のことを考え、約束や社会のきまりを守ろうとする態度を育てていくようにしたい。

2 指導上の留意点

本資料の活用にあたっては、児童がよし子や周囲の人々の気持ちを想像できるように自分たちにも似たような経験がないかを振り返って考えさせるようにしたい。そして、無言の母の横顔を見ながらよし子が考えたこと、気付いたことを話し合い、社会生活で周囲の人々のことを考えてきまりを守ることの大切さに気付かせていくようにしたい。

3 展開例

【ねらい】

約束やきまりが必要な理由を考え、進んでこれを守る

- ・ 全のため。
- ・ 廊下は走らない。けがをしないようにするため。みんなが安全に気持ちよく過ごすため。

事例②

お母さんの思いを中心に考える展開

【主な学習】

- ①身の回りには、どのような約束やきまりがあるか。
  - ・ 信号を守る。
  - ・ 下校時刻を守る。
- ②お母さんが何も言わず、よし子を自分が並んだ所まで引き戻したのはどのような考えからか。
  - ・ 後から来て先に行くのは、ずるいから。
  - ・ 他の人の迷惑になるから。
- ③お母さんは、どのようなことを考えながら窓の外をじつと見つめているのか。
  - ・ 順番を守ることが大切だということに自分で気付いてほしい。
  - ・ みんなのことを考えた行動ができるようになってほしい。
- ④よし子に何か言っておけるとしたら、何とどうするか。
  - ・ 順番はきちんと守ろうね。
  - ・ みんなに迷惑をかけないように行動しよう。
- ⑤みんなのことを考えて約束やきまりを守っていることがあるか。それは、どのようなことか。
  - ・ ぶらんこに乗る順番を守った。
  - ・ 校庭を学年別に使うルールを守った。

うとする態度を育てる。

事例①

よし子の思いを中心に考える展開

【主な学習】

- ①バスが見えたとき、よし子が駆け出してバス停の先頭に並んだのはどのような思いからか。
  - ・ 早くバスに乗らないと雨にぬれてしまう。
  - ・ 早く行って、お母さんと一緒に座りたい。
- ②六番目に並んで待っているよし子は、どのようなことを考えているか。
  - ・ せっかくならば先頭に並べたのに。お母さんは、なぜ引き戻したりしたのか。
  - ・ 早い者勝ちでいいじゃないか。損した気分だ。
- ③知らぬふりをして窓の外を見てお母さんの横顔を見ながら、よし子はどのようなことを思ったか。
  - ・ 私が追い抜かしたから、お母さん、怒っているんだな。
  - ・ 待っていた人たちに悪いことしたかな。
- ④身の回りには、どのようなきまりがあるか。またそれはなぜあるか。また交通ルールを守る。安



四の視点 重点ページ

みんなが守らなくてはならない

きまりがある

P.128~129

1 このページの特徴

道徳の指導内容の重点の一つである集団や社会のきまりを守ることに關して、学校生活や日常生活での実践化を図るためのページである。誰もが守らなくてはならないきまりを確かめ、その意義をみんなで話し合うことで、約束や社会のきまりを守ろうとする態度を高めることができる。

2 活用事例

日常生活

このページを活用して、みんなを守るべききまりについて確認するとともに、自分を守っているのかを振り返らせるようにしたい。さらにこのページの内容に加えて、学級でのきまりを考え、掲示することも考えられる。



P.128~129